長崎大学 子どもの心の医療・教育センター
―子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム2023―

【研修報告】B-5 ASD 児のコミュニケーション支援（講師：服巻 智子）

◆自閉スペクトラム症(ASD)のある人のコミュニケーションの特性

・会話が一方的で、やり取りや対等な会話になりにくい
・相手に理解できるように話す、というより、自分の文脈で話し始め、話を展開しがち
（「いつ、どこで、何があった」の根本的な情報に欠ける、あるいは情報過多）
・説明＞自分の要望
・対人要素の理解が少ないので、人に話すことで手助けしてもらえたり、解決したりする、という理解が少ない
・話を聞きながら、理解しながら、返事を考えながら、スピーチに変換して出力する、という同時進行という困難
・情報交換以上の社交的な関わりの要素が困難
・言語で定義された情報以外の内容の読み取り困難
・適切なリアクションの選択の困難
・スピーチ（音声言語）だけの手段による理解の困難、表現の困難

対人コミュニケーションとは

・情報の提供、交換
・情報以上の社交的な関わりも求められる
・相手の話の内容だけでなく、話している相手への興味や共感も求められる
・相手が一人以上の場合も多い
・受信と発信以外の、対人興味、社会のコンセンサスの理解も必要

◆ASD の人へのコミュニケーションの指導

・【受信】と【発信】に分けて教える
・その人の認知力や言語理解力に合う受信と発信スキルによる情報の交換ができるようになったら対人要素を組み込む

受信 ＝ 言語理解の指導

・TEACCH アプローチに優れた支援法がある
・言葉の理解力、指示の理解力
・認知レベルが大いに関係する
・言語のサブライとしての視覚支援が重要
【認知レベルに合わせたサブライ】
・文字
・絵やアイコン、写真
・具体物

発信 ＝ 言語表現、その他の表現法

・他者に伝える必要のあることを表現するモード
・言語あるいは言語以外の方法も可
同レベルとして扱う
・発信にも、視覚支援を組み込んで活用する

Ex)話し言葉、手話、文字盤、書字、アイコン
PECS、コミック会話